

[001]樺太演習林に於ける植物生態調査

植村, 恒三郎
九州帝国大学演習林長

田中, 祐一
九州帝国大学演習林助手

<https://doi.org/10.15017/14200>

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 1, pp.1-117, 1931-06. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

第三章 調査の目的、方法、區域

本調査は北部樺太に於ける、エゾマツ、トドマツの生育状況を明かにし之が環境条件との関係、更新関係等を知らんが爲め各植物帯を網羅する如く、下部はツンドラ地帯より上部木菟山頂（海拔 1,148 米）を通じて幅 3 米のベルトを設定して次の調査をせり。

此區域を大別して平坦部、中腹部、山頂部とす。而して平坦部を第一、第二に區分し、第一平坦部は演習林最下部より千輪川に沿ひ軍路に到る延長 3,100 米、海拔 81 より 129 米にして、第二平坦部は軍路より大和澤（保惠川支流）の分水嶺（4/9 林班界）を登る延長 5,900 米、海拔 129 より 349 米に至る間、中腹部は平坦部に連続して保惠川第一支流の上流を登る延長 3,000 米、海拔 349 より 590 米の間、山頂部は中腹部に續く延長 2,357 米 海拔 590 より 1,148 米の木菟山に到る間にして、總延長 14,357 米 高低差 1,067 米なり。

區別	ベルト延長(米)	海拔高(米)	高差(米)	平均勾配
第一平坦部	3100	81—129	48	$\frac{1}{64.6}$
第二平坦部	5900	129—349	220	$\frac{1}{26.8}$
中腹部	3000	349—590	241	$\frac{1}{12.4}$
山頂部	2357	590—1,148	558	$\frac{1}{4.2}$
計	14357		1067	

此ベルトは距離 100 米毎に B.M (標杭)を設定して其位置と水準高を實測し、陸地測量部の水準測量及バロメータ測量により海拔高を算定せり。

植物調査は全ベルトにつき調査採集を行ひ標本を作成し、各種植物の頻度、被覆度を定め、エゾマツ、トドマツ林の調査は各 100 米毎に中庸標準地（幅 3×長 10 米）即ち 30 平方米を選定し之を實査せり。

植生層は

- (I) 林木層（之れを 6 米以上の層、6—2 米層、2—0.3 米層、0.3 米以下の層、に分ちて本数を調べたり）

- (2) 灌 木 層
- (3) 草 生 層
- (4) 蘚 苔 層
- (5) 腐 朽 木 層

の五層に區分して夫々測定し、林木層は各直徑及高さ、併に附近森林の材積を概測し、又 0.3 米以下は其生育配置と本數とを調査し各々之を圖示せり。

灌木層、草生層、蘚苔層、腐朽木層は標準地に對する被覆度を占領面積によりて算定し次の五級に別ちたり。

%	等 級
100—81	5
80—61	4
60—41	3
40—21	2
20— 1	1

土壤は 100 米毎の標準地につきボーリングをなしフォームス層、土壤深度及不透層の深度を測定し、其酸度は鹽化加里法により總酸量をキンヒドロン法により P_H を測定せり。